

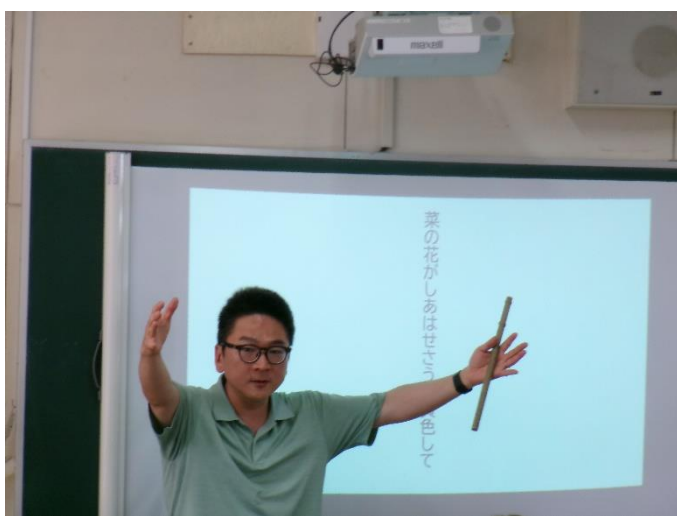
学校探訪レポート

～先生はみんなのパーソナルトレーナー！一人一人に寄り添う授業の工夫を見つけました～

校長 古閑 龍太郎

子どもたちの豊かな感性に耳を傾け、一人一人の表現力を優しく引き出す「パーソナルトレーナー」としての先生方の実践を紹介する本レポート。今回は、3年6組で行われた坂田敬示先生の国語科の授業（単元名：「俳句の世界」）を参観しました。丁寧な振り返りの共有を経て、五感を研ぎ澄ませながら17文字の情景をデジタルで表現していく、生徒たちの主体的で創造性あふれる学びの様子をお届けします！

◆ 丁寧な学びの接続と、五感を研ぎ澄ます「俳句の世界」への鮮やかないざない



坂田先生の授業の始まりには、子どもたちの学びを細やかに見つめる確かな工夫がありました。漢字テストを終えたあと、前单元における一人一人の振り返りを先生が丁寧にまとめ、学級全体へと共有。自分の足跡を確かめ、友達の視点に触れることで、教室全体の学ぶ空気がじんわりと温まっています。

そこから始まったのが、新しい単元「俳句の世界」です。提示された「菜の花が しあはせさうに 黄色して」というわずか17文字の言葉。先生は、そこに「表現されていること」だけでなく、「表現されていないこと」に

まで子どもたちの想像力を優しく広げていきました。色、光、風の匂いやぬくもり——。短い言葉の響きから子どもたちは五感をフルに働かせ、俳句の奥深い世界へと一気に引き込まれていました。

◆ デジタルで紡ぐ「言葉と画像の可視化」と、一人一人の世界観に寄り添う伴走

続く活動では、一人一台学習者用端末（Google スライド等）を駆使した、現代的な言語活動が光りました。子どもたちは先ほど膨らませたイメージを基に、言葉と、その世界観にぴったり合う画像を組み合わせ、自分だけのオリジナルスライドを作成していきます。

伝統的な言語文化をただ知識として学ぶのではなく、デジタルツールを使うことで、自らの内側にある独自のイメージを主体的に「見える化」していきます。活動中、坂田先生は「歌の世界観を他者へ分かりやすく伝える」という目標に向けて、一人一人の手元の画面や思考の進み具合をじっくりと見守り、個別に温かいアドバイスをされていました。個々の自由な感性を尊重しながら、表現の技法を支えるその姿は、まさに子どもたちの創作活動に伴走する「パーソナルトレーナー」そのものでした。

◆ おわりに

わずか17文字から広がる無限の情景を、言葉と画像でクリエイティブに表現させた坂田先生。自分の考えを生き生きとスライドに落とし込む子どもたちの目には、確かな学びの喜びが輝いていました。一人一人の感性を大切に耕し、豊かな表現力を育む日々の授業づくりに、心から感謝いたします。いつも本当にありがとうございます！